

宝林宝樹 (4)

「すまんことよのう、にんげんのあさましきよのう」

庭の草引きをする時、いつもこの言葉が頭に浮かびます。これは“河村とし子”さんの姑さんが、よく言われていた言葉だそうです。育てている作物が大事で、それを邪魔する雑草が憎らしく思う。でも皆いのちを精一杯生きている。

元クリスチャンであった河村とし子さんが、義父母との出会いを通して、阿弥陀様の呼び声を聞く身になられた。その講話の御本を、もう三十年以上も前に読ませていただいた時、冒頭の言葉に出遇いました。その時は「ああ、そうか」ぐらいの受け止め方でしたが、不思議にも何年経っても草引きの時に私に語りかけます。わびる気持ちもない人間・自己中心の生き方、そこには愚痴と文句の世界が支配します。でも脳裏に浮かんだこの言葉に「そうだった、そうだったなあ」と方向を変えて下さるのです。でも、すぐ忘れてまた自分中心、愛憎違順で日送りしている私。そんな私に倦(あ)くことなく、人様を通し、言葉となって呼び続けられる阿弥陀さま。それこそ誓願不思議でありました。

少しだけ心の耳を開いて、メッセージを受け取っていききたいものです。

